



雨水利用を進める全国市民の会

会長 辰濃 和男

〒131-0032 東京都墨田区東向島 1-8-1

TEL: 03-3611-0573

FAX: 03-3611-0574

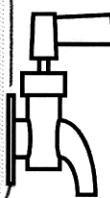
H.P: <http://www.rain-water.org/>

雨水利用事業者の会 発足

平成十二年十一月六日

より良い製品で

雨水利用をさらに広げるためには



規約・会費など

本会の目的は、雨水利用に関する事業者が一同に会し、会員相互、市民、行政および研究機関等との交流を通じて、技術の向上と良質な製品・システムの普及を図ることです。また、雨水利用を事業として営み、本会の目的に賛同する企業が会員となって構成します。

入会金：20,000円 年会費：36,000円
(途中入会の会費は月割り)

会長 德永暢男 雨水リサイクル研究所

幹事長 笠原 齊 (株)トーテツ

書記担当 中山義光 エコネックス(有)

会計担当 谷田 泰 (株)タニタハウジングウエア

広報担当 松本正毅 松本デザイン機構(有)

監査担当 前田嘉人 サンエービルドシステム

「水は生命の源」

◆雨水利用事業者の会・幹事長 笠原 齊

去る11月6日に開かれた設立総会をもって、「雨水利用事業者の会」は正式に発足しました。この会は、6年前に墨田区で開催された雨水利用東京国際会議に賛同し、雨水利用の製品開発に取り組んできた企業が中心となって、設立したものです。

この東京国際会議を契機として、市民、行政、研究機関の間で雨水利用への関心と理解が深まり、事業面においても明るい展望が見られるようになってきました。

雨水の有効利用を目的とする事業は、「水は生命の源」のことわざどおり、環境ビジネスのもっとも大切な分野を担う事業であります。私たちはこうした自覚をもって、雨水利用のハードとソフト両面にわたる役割と責任を担っていきたいと考えています。

会の運営にあたっては、関係する各分野の方々との交流を通して、ニーズの把握に努めつつ、業界の育成と発展を期していく所存です。

皆様方のご指導をよろしくお願いいたします。現在、入会を予定している事業者は、関東圏を中心とした約20社です。まずは、参加各社の製品を掲載した総合カタログを作成したいと考えています。

会長 德永暢男氏の談話



事業者の会の言い出しへとして、会長を引き受けことになりました。購入した消費者が納得できる、ローコストで性能のよい雨水製品のとりまとめを行なっていきます。同時に、地球環境に配慮した産業の育成に向けて建築家さんとも協力し、さらに住宅への設置に対する国や自治体の助成制度や条例についても働きかけていきたいと考えています。(文責・宮村)

建築学会でも雨水利用に取り組んでいますよ！

第25回 水循環シンポジウム開催

日本建築学会・水環境小委員会 神谷 博

21世紀に向けた循環型のまちづくりをめざして、雨水循環のシンポジウムが開かれます。この6月に出版された『雨の建築学』(日本建築学会編／北斗出版)は、建築が雨を育む、という視点で一般向けに書かれました。その主旨を広く伝えていくためのシンポジウムです。

『やってみよう雨水利用』を多少とも建築サイドからバックアップできる内容を目指しています。地球環境時代に相応しい「雨水建築」を普及させたいものです。

シンポジウムでは、ドイツにおける雨水利用、循環への先進的な取り組みを紹介し、これを踏まえて日本の雨水に関わる業界や学会のあり方、また施策面の整備など、今後の課題について検討します。午前中はセミナーとして、雨水循環の技術的な側面に焦点を当て、最新の取り組みを紹介します。会場ではパネルの展示もあり、展示物として雨水利用事業者の会から雨水タンクも勢揃いします。新製品もあるようですよ。皆さん、どうぞご参加下さい。

日時 平成12年11月25日(土)

午前の部 10:00~12:00 技術セミナー

忌部正博、徳永暢男、ユルゲン・ヴィッヒシュトック、早坂悦子

コーディネーター黒岩哲彦

午後の部 13:00~17:00 シンポジウム

基調講演 クラウス・ケーニッヒ

シンポジウム 鈴木信宏、村瀬 誠、細見 寛、コーディネーター神谷 博

会場 日本建築学会 建築会館ホール

会費・資料代 一般 3,000円、会員 2,000円、学生 1,000円。懇親会費 3,000円

参加申込 日本建築学会・米沢宛 電話 03-3456-2057 ファックス 03-3456-2058

2001年版完成！

「雨暦」の販売にご協力ください

今年も恒例の雨水カレンダー「雨暦」が完成し、会員の皆さんにはすでに無料でお送りしました。楽しく、有益な内容を盛り込んだ仕上がりだと自負しておりますが、いかがでしょうか。

例年、お配りしているカレンダーを雨水利用の普及・宣伝にお使いいただくよう、会員の皆さんにはお願いしておりますが、残念ながら思いのほか注文が少ない状況です。

過去には企業協賛のカレンダーも多く、資金面での苦労はなかったのですが、ここ数年の不況の影響からか、企業協賛が思うように伸びず、予算的にきびしい状況です。

つきましては、活動の一翼を担う会員の皆さんに、少しでも多くの方に雨水利用の意義を理解していただきながら、カレンダーの購入をお勧めいただきたく、おねがいします。

価格は1部1,300円、送料は全国一律、10部まで500円です。事務局へ、はがき、またはファックスで、ご注文をお待ちしています。 (雨暦制作チーム 大塚 康三)

市民の会・雨水利用連続講座パートII

第2回

埼玉県の雨水利用—所沢市を中心に

2001年1月27日(土)

午後1時半～4時

会費 1000円

(資料代、コーヒ一代含む)

講師：関根 久男（会員・所沢市職員）

会場 神田学士会館

03-3292-5931

埼玉県では、雨水利用を普及させるため、助成制度を導入している自治体が増えています。所沢市もその一つで、平成9年度から開始しました。以後、3年間で120余の雨水タンクが市内の個人住宅に設置され、市民の間に雨水利用への関心が高まっています。

公共機関での普及もめざましく、保育園、小・中学校、文化会館、市庁舎など14カ所にのぼっています。さらに現在計画中の施設が3カ所あるとか。その数字からも雨水利用への熱意がうかがわれます。その強力な背景となっているのは「ISO 14001」（国際環境認証制度）の取得だそうです。

四国・高松市や九州・福岡市などの水不足はしばしば報じられてますが、首都圏の埼玉県の水事情は意外に知られていません。埼玉県で雨水利用への関心を高め、意欲的な取り組みを進めるようになったきっかけは何でしょう。どんな雨水利用が広がっているのか、この機会にリポートをしていただけたことになったので、期待が持てます。会員の皆さまのご参加を心からお待ちしております。お申し込みは、お早めに事務局までお願いします。

電話 03-3611-0573 fax 03-3611-0574 担当者 田中 清子

雨の事典制作チーム

苦行のあととの、ひととき

イラスト担当 ◆松本 真理子

「雨の事典」制作チームの活動もいよいよ佳境に入ってきました。編集会議も11月からは毎週行われています。私もわずか3本文執筆に四苦八苦しながら、来年1月の入稿に向けてイラストを描きはじめました。執筆の皆さんとの、幅広くまた深い内容の文章に恥じないようにと思うと、イラスト担当としては面白いやら辛いやら、といったところです。現在、私のほかに2人が描いてくれています。

今回の本は「事典」ですので、イメージ的なものより実際に即したもののが要求され、写真などの資料が必要になります。写真も使用しますが、なるべくイラストをという編集方針で、描く点数はかなり多くなりそうです。イラストに役立つ資料を執筆者が揃えるのは大変で、また、すべての資料をイラスト担当が探したすのも時間的に不可能です。こまめに打ち合わせや資料の受け渡しをするほかなく、イラストのためだけの打ち合わせもすでに何回か行ないました。

執筆者一人に挿絵一人というのと違って、多くの人がかかわって一冊の本を作るというのは本当に大変なことで、エネルギーと熱意がなければ続かない作業なのだと感じています。

そんな苦行のような編集会議が続く中、最近の楽しみは、会議のあと皆で飲む、一杯100円也の生ビールです。（とある居酒屋にて日曜日限定の値段。）



あなたもできる。ホーム大工で、雨水タンクを組み立てよう！

雨水利用を進める全国市民の会では、このたび、タンクの販売事業をすることになりました。

これまでにも、市民の会ではさまざまな雨水利用を広める取り組みを進めてきました。しかし、会員の皆さんの周囲には、いまだ雨水タンクを設置する条件が整わず考慮中の方も多いのではないかでしょうか。

雨水利用の楽しさを知ってもらうためには、やはりある程度の大きさの雨水タンクを使ってもらうことが必要です。そこで、このたび、市民の会では、手軽な「初心者入門編」とでもいえる、雨水タンクのキットを販売することになりました。

材料は赤茶色で、輸入したシェリー酒の空きタンクです、容量は通常市販の雨水タンクと同じ200リットルです。

ただ、このシェリー酒のタンクは、フタも蛇口もないズンドウのカプセルのようなもので、そのままでは使えません。雨水タンクとして使用する場合、フタを開けて中の様子をみたり、清掃などができることが望ましいし、取水口や蛇口は絶対必要条件です。フタをつける場合、タンク上部の切断面の補強なども専門家が処理する必要があります。

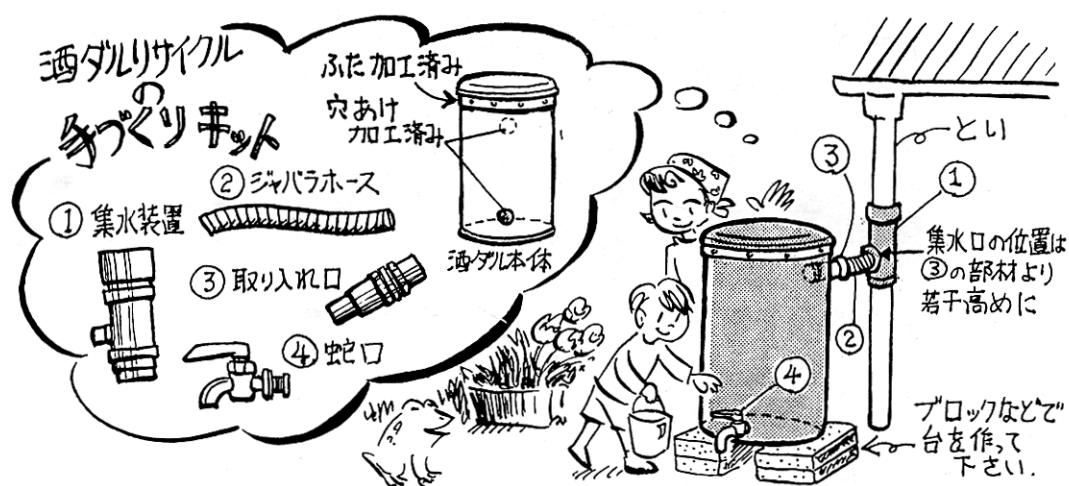
こうした基本的な処理を済ませて、素人でも取り付けられる状態にして、販売します。1セット2万円で、送料は実費をいただきます。なお、これには水位計もドレンの、備え付けの台もついていません。清掃もタンクを空にしてご自分で洗わなければなりません。

市販の雨水タンクに比べればチャチかもしれません、「初心者入門用」として、いかがでしょうか。

会員の皆さんに気軽にご注文いただき、周囲の方々や市民団体などでも宣伝していただき、雨水利用を広める運動の一翼を担うことができれば幸いです。皆さまの積極的なご利用と地域での宣伝活動をお願いする次第です。

10基単位で専門家に加工をお願いするので、納入までに多少時間がかかることがあります。詳細とご注文は事務局までご連絡下さい。

雨が降って、自宅のタンクに雨水が溜まっていく……、その音を聞いているのは至福のひとときだそうですね。



イギリスの
水リサイクル・スキーム

イギリスの雨水利用

これまで欧州の雨水利用についてドイツを取り上げることが多かった。イギリスもまた取り組み始めている。10月16日に東京・イギリス大使館において、雨水利用のセミナーが開催され、村瀬事務局長が参加した。そこで得た資料からイギリスの雨水利用を抜粋して紹介する。

◆リーズ市 アラートン・パーク

公園内の3戸の建物で、油脂受けを通過した汚水が貯められ、汚水は薦床を通過して貯水池へ流れ、雨水とともに貯められる。その水は、さらに池からポンプで汲み出され、メッシュのフィルターを通過したあと、12.5ミリミクロンのフィルターでろ過されて、貯水容器に貯められる。その水は家庭に供給される前にUVで殺菌される。雨水は、屋根から集められてフィルターを通って地下タンクに貯蔵される。

さらに、ろ過前処理および炭素・セラミック・フィルターを通過してろ過を行い、料理用、飲料水に供給される。飲料水は、利用される前に環境局のテストを受けなければならない。

◆ルーバラ大学

汚水および雨水の集水・処理設備を備えた大学のレジデンス・ホール（複数）で、嫌気性ないし好気性細菌によるフィルター装置、および炭素吸着装置によって水処理を行い、処理された水はトイレの洗浄水として用いられる。

◆サウス・タウンサイド・エコセンター

このセンターは14のオフィスから構成されている。ドライ式トイレ使用。雨水および汚水は同じ水受けタンクに集められ、トイレ用水およびかんがい用水として利用。トイレからの液状廃物は雨水で薄められ、川に放出される。

◆ロンドン、グリニッジ ミレニアム・ドーム

トイレ、公衆トイレ洗浄水として、手洗水、雨水および地上水が利用されている。

水処理は、BAF,GAC,薦床および貯水池および逆浸透装置で行われ、400のトイレと130の公衆トイレ用に水が供給されている。

◆個人住宅や一戸建て会社などの、雨水だけの利用について

地下室に雨水貯留タンクを置いてトイレ用水や洗濯用水に使用している例が多い。エコヴァット・システムを採用している場合、5000リットル、1万リットルの貯水施設になり、かなり大がかりである。これらもほとんど家庭用非飲用水としての使用で灌漑用および屋外使用という例もわずかにあった。この資料に記載されているだけで45件がエコヴァット・システムを採用している。

◆テムズメッド セーフウエイ・ストア（スーパー）

雨水をトイレ用水として用いたイギリスで初めてのスーパー。

◆ノッティンガム 热帯植物センター

小規模のかんがい用水モンスター・システム、一日当たり約10

以上、Clanfield Disaper博士作成の資料に依った。厚い資料なので、いずれ会の資料集などと報告したい。

◆ オランダから中・高校生、墨田区役所の雨水施設を見学

オランダと日本の国交400年ということで、記念事業の一環として、10月23日(月)、バーグ市の中学・高校生30人が墨田区役所を訪問しました。校長先生は「オランダの学校にもぜひ雨水タンクを導入したい。浅草も帰りがけに見物したが、子供たちは雨水タンクの方が興味深かったようだ」と話しておられたそうです。最近は、見学者も国際的になって、「うれしい悲鳴」の墨田区役所です。

◆ えっ、ロック・キャッチメント？！

石田惠慈さんは、メキシコ市チワワで岩場を利用した雨水の集水に来年、取り組もうとしています。石田さんが所属している「風の学校」は、現地の道具を使い、その土地に合った農業などの技術を伝えることを目的にした国際NGOです。

これまで井戸掘削や学校の屋根を利用した集水に取り組んできました。ペルーのフォグ・キャッチメントにも驚きましたが…、吉報を期待しましょう。この活動には、英訳した『やってみよう雨水利用』が役立っているそうです。

◆ 来年は、ドイツで雨水利用国際会議ぜひ、多くの方が参加のご準備を！

第10回雨水利用国際会議(IRCSA会議)が、ドイツのマンハイムという町で開かれます。期日は2001年9月10日から14日。都市の雨水利用がひとつのテーマになっています。

私たちが「市民の会」を通して、実践してきたこと、志していることが、国際的に議論されるのです。マンハイムはどんな町でしょうか。できるだけたくさんの方が参加されるよう、早めにお知らせします。

◆ 市民の会の雨水利用連続講座、

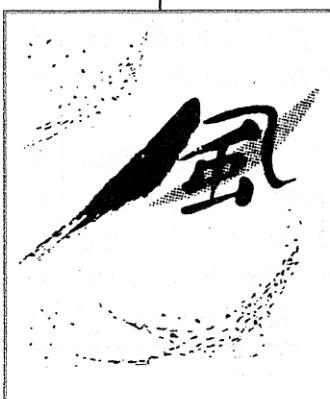
「トイレ」を語って盛況

トイレ協会理事、市民の会代表幹事の山本耕平さんを迎えての講座は、題して「トイレの雨水利用は是か非か」。10月7日夕刻から学士会館で開かれました。世界各地のトイレ事情から阪神震災時のトイレの話まで。身に詰まされつつ、思わず引き込まれた有意義な講演でした。出席者は満員の21人でした。いつもアットホームな雰囲気のある連続講座です。この内容は、いずれ、市民の会発行の「資料集」にまとめられる予定です。

◆ すみだの稲づくり、収穫祭

「市民の会」教育部会では毎年、区内の幼稚園や小学校に稲の苗を配っています。11月11日(土)11時から2時まで、墨田区家庭センターで、子供たちの手で、ごへい餅やおにぎりを作りて収穫を祝いました。もちろん、それだけではなく、苗を毎年届けてくれる秋田の阿部淳さんのお話を聞き、稲に関する情報交換や懇談もしました。

参加は立花小学校、縁小学校、外出小学校、中川小学校などのみなさん、35名でした。



◆ 雨水利用に関する環境教育が増えている

各地の小学校やときにはガールスカウトなどからも「市民の会」に講師依頼が増えています。何をおいても子供優先と、飛んでいくのが村瀬さんや徳永さんたちです。徳永さんは10月、江戸川区二之江第二小学校へ、村瀬さんは11月江戸川区小岩小学校へ出向きました。伊藤さんも地域で子供たちに密着しています。来年1月は松本正毅さんが「自然エネルギー学校ひょうご」の、雨水利用の講演を行きます。講師の人材を養成することも求められています。

○街はもうクリスマス色に染まり始めています。二一世紀の幕開けはもうすぐですが、その前に雨水カレンダーの販売などをよろしくお願ひいたします。

○来年は、各地の会員方々を訪ねてご紹介するコーナーなども企画しようと提案されています。いろいろなお話を伺いたいと思います。

ぜひ事務局までお寄せください。

編集長

糸賀幸子

編集後記

○この会報を作っている間に村瀬事務局長が風邪をひきました。遠くから見てるだけでも驚くほど多忙なので寝込むことはないはずです。辰濃会長も自著の出版に追われて睡眠時間を削りに削っているようです。

○みんな似たりよつたりの生活を送っているようですが、身近なところでは「雨の事典」の編集メンバーは迫り来る嵐に追いかかれている農夫のようです。

